

『ひも作りの可能性—ひもによる器づくり—』

高知県立高知丸の内高等学校
島 武史

学校紹介 全日制単位制普通科・学年制音楽科
対象学年 2・3年
制作時間 作品一つにつき約8時間

コンセプト

他国で作られた工芸品の中には、その発想の豊かさに驚かされるような作品に出会うことがある。自然に対する感覚の違いや素材の可能性を教えてくれる感性豊かなそれらの作品に出合った時、人は感動を体験するとともに、自らの創作意欲を刺激され、創造力を持って作品制作してみたいというきっかけの一つになるだろうと思う。

作品制作の場面において感性を働かせるためには、参考作品等の鑑賞によって刺激や発想の手掛かりを与え、生徒達の内面に働きかけることが必要である。今回はポルトガルの工芸品から柔軟な発想力や素材の生かし方・技法などを学び、理解を深めるとともに、そこからさらに感性を働かせて、個性豊かなオリジナル作品制作まで発展させていきたいと思う。

準備するもの

陶土、練り板、厚紙、筆記用具、コンパス、発砲スチロール、雑巾、カッターナイフ、はさみ、霧吹き

制作手順

- ①制作方法の確認。陶土に水を加えて荒練り、菊練りする。
- ②ひもを20本作る。(直径5mm、長さ10cm)練り板に霧吹きをかける。2本のひもを1組にしてドベで接着。計10組作る。乾燥を防ぐため濡れ雑巾に挟んでおく。
- ③底を作る。板きれの上に縦5組、横5組を上下に編むように並べる。
- ④厚紙にコンパスを使って円錐形の型を制作。(外円の半径13cm、内円の半径9cm)。発砲スチロールの上に並べたひもに厚紙を重ねて型に沿ってカッターナイフで切り、円形にする。
- ⑤ひもを20本作る。(直径5mm、長さ約8cm)円錐形の厚紙の内側面にひもをアーチ状にして、底の部分のひもとドベで一本ずつ接着する。この時2本ずつ飛ばして次のひもに接着しながら一周する。アーチとアーチが重なる部分もドベで接着。
- ⑥接着部分を隠すように別のひもで上下から挟むように接着する。
- ⑦左右に取っ手をつける。アーチ状のひもの最上部に飾りをドベでつける。
- ⑧素焼き後、陶芸絵の具で彩色し、透明釉薬を掛けて本焼きする。
- ⑨次の作品制作として、より発想豊かなオリジナル作品制作に挑戦する。

制作風景



ひもを作る。太さを均一にする。



10cmに切断。



2本ずつ接着。計10組作る。



乾燥に注意。こまめに霧吹きする。



ひもを上下に重ねる。



ひもが折れないように注意。



発泡スチロールの上で制作。



厚紙で円錐の型を制作。



型に合わせて円形にカット。



器の底になる部分。



ひもをアーチ状に接着。



取付が間違いないか確認する。



上部につける飾りの制作。



最上部にドベで接着。



工芸の授業風景。



乾燥させる。



素焼き前の状態。



素焼き後、色付けする。



透明釉薬を掛けて本焼きし、完成。

コメント(まとめ)

「粘土で編む」という発想の豊かさを生かして、オリジナル作品制作に挑戦したが、少しこじんまりとまとまった作品になってしまった。粘土の性質等をよく理解して制作する必要があり、本制作の前に必ず練習作品を制作する必要がある。「ひも作り」の可能性という点では今回の作品で満足することなく、ここを出発点としてさらに発想豊かで個性あるオリジナル作品制作まで発展させたいと感じている。